町村新報

發行日 每月二回十五日卅日
編輯兼印刷發行人 酒井秀吉
發行所 福島縣石城郡磐崎村大字下湯長谷勝善三十八番地 町村新報社
支局 植田、勿來、小名濱、湯本、平
定價 一部金十錢 一ケ月金二拾錢
廣告料 五號活字十二字詰 一行金二十錢 別色刷 四十錢

町村の解剖

燦然たる光輝

泉村は果して模範村なりや

社長 佐川道善

國家の中樞機關は政府に在り、地方の中樞には地方官廳あり、町村中樞には町村役場あり、何れも國家社會に對する分擔事務に於て君國の爲めに組織的に自己の分擔に從つて努力精進して居ることは論を俟たない。然るに今日の時勢は人情浮薄で道德地に墮ち恰も澆季の世で世上傳ふる所區々なるは憂ふべき現象といふべし、中央關機に於ても××事件、瀆職事件頻々として起りその俗惡なる實利主義政治の弊害は徒らに國民の疑惑を生し國家の變亂衰亡の非運を招起するではないか。

これ即ち倫理道德觀念の缺陷は實に痛感せらるゝ所國民としての信賴は益々淺薄となり、國家を危殆に導びく罪惡でなくて何であらう歟仄聞するに輓近地方自治機關にもこの種の實利主義病の疾患に犯され偶々町村民として安閑と坐視するに忍びざる敗德者が簇出して誠に憂慮に堪えざる次第である。

町村新報は題目の通り町村の通信機關なる爲め地方町村を行脚し、勸善懲惡を基礎として精査以て廣く報導し村の中核たるものゝ不正行爲を排擊し、善良なる町村民の爲めに筆を惜しむものではない。。。。

石城郡模範村泉村を紹介す

本村は石城郡の東南部に位し東は小名濱町に隣り西は渡邊村及植田町に隣列し南は大平洋に北は玉川村及磐崎村に隣接す、村役場、小學校、公民學校、駐在所等は村の中央大字泉字泉にあり。

本村地勢は東西一里十町南北一里三町面積一〇五方里なり、地勢は西北境に阿武隈丘陵に屬する小連岡あるも峻嶮ならざれば最高九十四米、さまで交通に害せす却て冬季西北の寒風を遮の効果あり他は概ぬ平坦にして沖積土に屬する田畑よく開け概ね農桑に適し沿海は鰮、鮑、海藻等の漁利あり

人口は男二千二百五十七人女子二千百五十七人計四千四百十四人にして漸次增加しつゝあり。

村政組織としては村長一名助役一名、收入役一名、書記四名、技術員二名、區長六名、區長代理者六名、村會議員十二名、學務委員四名、會計檢査委員三名、統計調査委員十一名あり、各種團体としては泉村農會六百二十名泉村信用組合百六十二名消防組員百八十六名青年團員二百十一名處女會百二十七名在鄉軍人分會三百二十九名養蠶同業組合百五十名養鷄組合四十名自治實行組合四百四十名園藝組合十六名劔濱漁業組合二十九名あり

生產額としては食用農作物二十一万七千六百八十四圓疏菜類四万五千五百九十二圓果實及養蠶二万二千百七十五圓桑苗三百圓醬油四千五百圓畜產一萬四千二百八十五圓水產三千三百七十五圓總計三十一萬二千〇二十三圓現在六百七十五戸一戸當四百六十二圓二十五錢となり、人口四千四百十四人即ち一人當七十圓六十九錢なり。

村の財政歳入豫算高

財產より生ずる收入三百九圓使用料及手數料千七百十一圓交附金七百三十一圓國庫下渡金五千八百三十二圓國庫補助金千〇八十六圓縣補助金四百二十五圓寄附金百八十九圓繰越金九百圓雜收入三百四十六圓村稅一万七千二百九十六圓

計二万八千八百二十五圓

歲出豫算高

神社費六十圓會議費百三十一圓役場費四千七百〇五圓統計費六十三圓土木費二十圓小學校費一万三千八百六十五圓公民學校費四千六百〇七圓青年訓練所費二百七十一圓傳染病豫防費四十一圓假隔離病舍費百三十一圓衛生費六十二圓勸業費八十八圓救助費二圓警備費三百四十七圓基本財產造成費百八十九圓財產費五圓積立金百六十八圓地方改良費六十圓雜支出二百五十一圓豫備費百圓

計二萬七千六百六十九圓

歲出臨時部

補助費千百二十圓寄附金三十六圓合計千百五十六圓

歲出合計は二万八千八百二十五圓である。

本村に於ける名望家としては元縣會議員小林減次氏、前福井縣師範學校長本多忠綱氏あり、人格崇高にして恰も神の如し有力者として百萬長者江尻博孝氏、上遠野豊次郎氏三戸源太郎氏あり、勤勉家として信用組合長軍人分會長齊藤昌孝氏、醫師佐藤直信氏、社掌飯塚重光氏、出版業來島正時氏醬油釀造業上遠野定次郎氏篤農家志賀澤之助氏、校長中野目廣治氏、驛長萩原末松氏、郵便局長猪狩健司氏駐在所巡査目黑尙信氏等何れも職務に忠實にして村民の信望厚き人物を得る本村は寔に幸福の賜と言はざるべけんや。

尙本村現職に於ける村當局の熱心なる活動振りは驚かざるを得ない。

役場吏員及村會議員は次の如し

名譽村長

中村立躬氏 は元校長安積郡視學を勤め湯本町長に推され後本村の村長たること三期に及ぶ氏は學識々見共に卓越し前に石城郡聯合會長として偉名あり。村の參謀長として勿体ない程の人格者である。

次に參謀次長助役

上遠野新重郎氏補佐役を勤め傍ら戶籍係を擔任す、未た嘗て一度の失策もなしと云ふ泉役場としてなくてならぬ生辭典と申しても過言ではあるまい。君の昇級も時期の問題ですから隱忍自若として努力されたい。

次に村の大藏大臣格

瀧內清吾氏 病氣の爲め弟星野七郎氏代理收入役を勤む氏は元泉村百万長者多額納稅議員資格者**江尻博孝氏** の會計出納係を勤めた程の人で頭腦明析分厘の違算なき清淨潔白各所に起る收入役の公金費消一時流用等の不正行爲流行にも不拘氏の如き石部賢吉とも言はれる位ひ固へ方を村金庫の鍵を渡すことは村民として必ず安心することであらう。次に

木村元靖氏 は元名村長木村元義氏の長男にして溫厚篤實の事務精通家として知らる目下兵事係を熱心に勤務す。次に

山本直次郎 氏は元台灣巡査を勤務職務勤勞に依り部長に昇進歸村して役場書記となり目下地理係を擔任す殊に巡査上り等と云ふ者は大底權ぺんを以て他に接する嫌があるがこの山本君に於てはそんな惡癖は絕對ない特に大書すべき美点と思ふ。次に

吉田惟三郎 氏は少壯書記として手腕力量あり、何事にも人後に落ざる氣風あり吏員講習會等にも拔群の功果を治む前途益々有望なる吏員たるを疑はず

◎村會議員短評

志賀澤之助 氏は產業合理化を高潮し農業經營者改善に努力し農林省の囑託を受くるも故なきに非ず完全溫室を作りメロンの栽培を以て知られ目下農事視察員の爲め訪問客長蛇の如く忙殺されて居る。

有田兼次郎 氏は地方切つての財政通にして役場に於ける凡ての賃貸價格其他何事も統計事務に調密なる頭腦の所有者にて農事の傍ら役場の手傳をなし居る人、天惠の明敏家である。

水野德次郎 氏は合同運送店の重役目下小名濱へ鏈詰會社を經營しつゝある實業家として敬慕さる

瀧內與平氏 は鮑の名產地劔濱に居を有し目下漁業組合長を勤め組合員二十九名あり、一ヶ年三千二百七十五圓の水產額を得て居る事は氏の力大なりと云ふべし

佐藤清治氏 大字泉字小山の篤農家にて地主なり目下消防組頭後任に擬せられつゝある健實な人

吉田熊太郎 氏は味噌醬油釀造業を營み君は獨得の商才に富み從つて家運頓に好くなりこの殺人的不景氣にも不拘村內にも珍らしき新建築をなした程の腕前の持主である

三戸良治 氏は議員中の最少壯なれ共氏は農事に熱心また一度意見を吐けば貫徹せざれば止まぬ美風の人である

古口浦之助 氏は村治功勞者として知らる物には熱心人には親切目下內務省の石材請負をしている溫厚な人

齋藤昌萬 氏は村議々員候補に際し運動員の一名も賴まず一文の運動金も費はず當選した名物男であるこれが所謂理想選擧と云ふべきである、斯の如き人物は將來確に後任村長であらう

吉田常藏 氏は目下烏肉商を營み他人の事なら何でも水火も厭はずと言ふ義俠心に富み近隣よりも慈父の如く親まれて居る尙學務員を勤めて居る

鈴木孝章 氏は前回の縣議戰に鷲清昇出陣の下馬評に際し氏もまた出馬せんと藤野屋旅館に同志を集めた名高い人また有名會社の重役を勤めた方、今回の候補者難產などには多分當選したらうとは某消息通は語つて居た

渡邊千松 氏は農業を營み老年にも不拘す自ら鋤鍬を取り朝は霜を踏んで夕に月を戴いて歸ると云ふ勤勞家である。次號は小名濱町

格安の靴鞄は當店へ
低廉吟味迅速親切
高野靴店 湯本上町
注文靴五圓ヨリ

社告

石城郡產婆諸姉ニ告グ
本紙附錄產婆書報出版ニ付未タ寫眞送附ナキ方ハ大至急御送リ被下度願上候

◎男◎女 社員募集

一內外勤社員 十名
一各町村每ニ一名宛ノ通信員ヲ設置ス
一資格本紙擴張ニ努力セントスル方
一希望者ハ自筆履歷書急送ノコト
一採否ハ追テ通知ス

町村新報社